

飯伊地区 産業経済動向

No.480 2019/3
(31. 4. 25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp

〒395-0044 飯田市本町1-2

TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,710	枚	△	10.9 %	△	14.9 %
	金額	5,116,670	千円		22.5 %		13.3 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 0 枚)		(前年同月 1 枚)	
	金額	0	千円	(前月 0 千円)		(前年同月 405 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)(1月)	県内	8	件	(前月 4 件)		(前年同月 11 件)	
	飯伊	0	件	(前月 0 件)		(前年同月 3 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(2月)		40	戸	△	28.6 %	△	25.9 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(2月)		1.38	倍	(前月 1.53 倍)		(前年同月 1.65 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	3,669	台		54.8 %	△	4.8 %
	中古車	892	台		61.3 %		10.0 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (2月)	新車	4,781	台		11.8 %		4.1 %
	中古車	765	台		8.5 %	△	0.3 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	117,321	台		20.2 %		0.5 %
	出	119,302	台		20.4 %		0.9 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	76,565	台		19.5 %	△	1.3 %
	出	61,078	台		0.0 %	△	18.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	13,355	台		12.2 %	△	4.2 %
	出	13,626	台		11.3 %	△	6.0 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	39,091	台		22.3 %	△	2.1 %
	出	38,457	台		23.7 %	△	2.6 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		174	件		16.0 %	△	15.9 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		4	件	(前月 31 件)		(前年同月 5 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	30,699	人		31.0 %		4.4 %
	飯田～名古屋	20,254	人		16.3 %	△	0.9 %
	飯田～長野	9,841	人		17.0 %	△	2.0 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	25,245	人		34.7 %		— %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,725	人		19.8 %	△	3.0 %
	右回り	3,523	人		14.5 %	△	2.1 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www. iidashinkin. co. jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性油インキ
[リチウム]100% を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

3月の製造業の業況判断指数(DI)は、製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス21.4で、前月から7.6ポイント下降。翌月予測もマイナス30.8で、前月から17.0ポイント下降している。

電気、精密機械器具の販売は、やや増加。一部に景況感が好転した業者も見られた。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれる。前年比は減少。景況感が好転した業者は見られない。産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、やや増加した業者も見られるが、減少～横ばい。景況感が好転した業者は見られないものの、悪化した業者もさほど多くはなく、横ばいとする業者が多い。建築用金属製品の販売は、前月比やや減少も、受注が増加したこともあり、「全体的に好調」など景況感も好転との声が寄せられた。自動車向け部品の販売は、前月比やや減少、景況感悪化との声。光学機器部品の販売は、前月比、前年比ともやや減少という。小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばいも、一部に景況感が悪化した業者も見られたほか、先行きも弱含みとの声が聞かれた。FA関連モーターの販売は、前月比、前年比ともやや減少、先行きも弱含みという。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、景況感悪化との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。一部に、前年比は若干減少との声が聞かれた。「一般消費は低調なまま」など景況感が悪化した業者も。水引製品の販売は、前月比横ばい～増加。前月比が増加した業者にあっても前年比はやや減少しているという。漬物の販売は、前月比やや増加も、「野菜が安い影響か、浅漬類の動きは良くない」との声が寄せられた。

建設業

3月の建設業の景況DIはマイナス15.4で、前月から22.5ポイント下降。翌月予測DIもマイナス21.4で、前月から8.9ポイント低下。

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約22.1億円となっている(4月15日調査時点)。

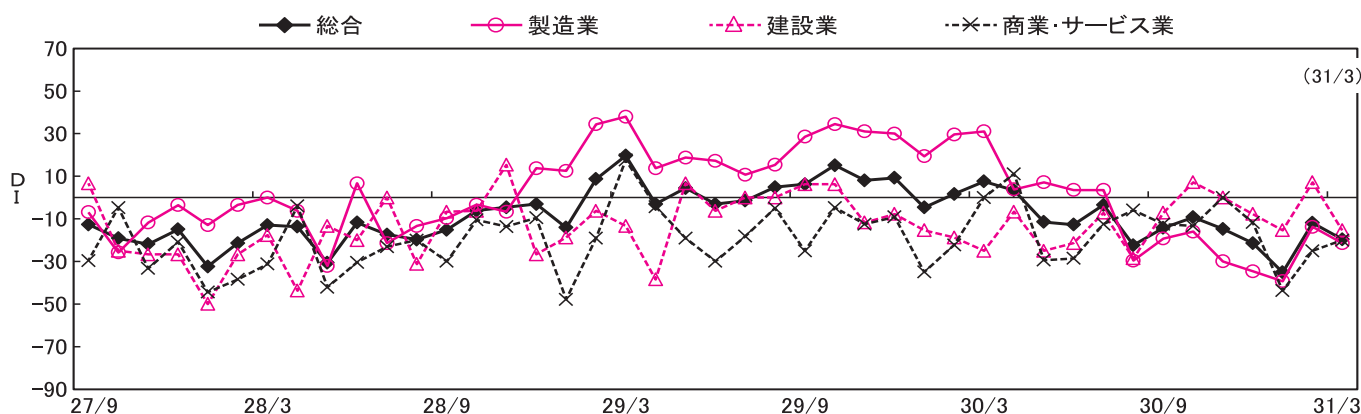
当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「土木、建築とも、少額とはいえ受注の機会があった」「完成工事が多くなっている一方、受注残は減少」など、増加した業者、減少した業者ともに見られるものの、概ね横ばいとの声が多い。

当地区の2月の住宅着工戸数は40戸。前月比29%減少、前年比も26%減少。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「受注したものはほとんど完成し、受注残高は減少」など、景況感が悪化した業者も少なくない。

商業・サービス業

3月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス20.0と、前月より5.0ポイント下降。翌月予測DIも、プラス7.1で、前月より4.7ポイント下降している。食料品の売上の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声が多い。青果卸売市場の販売は、前月比増加も、前年比やや減少という。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感に動きは感じられないとの声。電化製品の売上は、前月比やや減少も、前年比横ばいとの声が寄せられた。家事用品の売上は、前月比増加も、前年比やや減少との声。娯楽用品の売上は、「新キャラクターの発売」があり前月比若干増加。前年比は「トントン」という。土産物の売上は、前月比概ね横ばい、景況感にも大きな動きは感じられないものの、先行きは販売の増加を見込んでいるとの声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比55%増加も、前年比は5%減少。2月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比12%増加、前年比も4%増加。市内料理店の売上の前年比は、業者により増減分かれる。昼神温泉の売上は、前年比やや減少。「中旬まで非常に静かで、人の動きが例年と違っていているように感じた」などの声。タクシーの売上は、前月比増加も、前年比やや減少という。

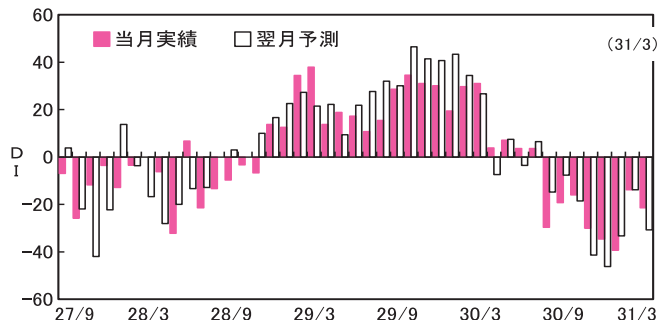
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



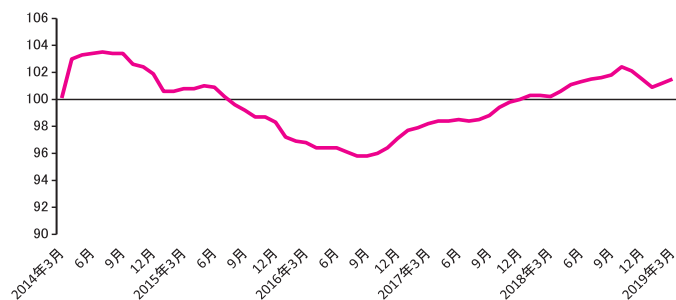
当月実績DI	-21.4	(前月 -13.8)
翌月予測DI	-30.8	(前月 -13.8)

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス21.4で、前月から7.6ポイント下降。翌月予測もマイナス30.8で、前月から17.0ポイント下降している。

企業物価指数の推移

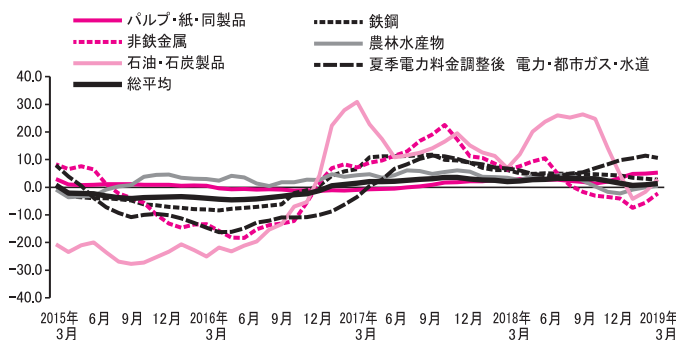
日本銀行が発表している企業物価指数をみると、2018年3月の国内企業物価指数（2015=100 夏季電力料金調整後）は101.5で前月比プラス0.3%、前年比もプラス1.3%となっていた。

国内企業物価指数の推移（2005=100 夏季電力料金調整後）



本誌調査でも、ガソリン代や、段ボールなどの紙製原料、包装資材、鉄の値上がりや、アルミなど非鉄金属、農産物の値下がりやを伝える声が寄せられているが、国内企業物価指数を類別に見ると、石油・石炭製品は2017、18年中の対前年増加率が大きかったが、2019年3月も前年比がプラスとなった。また、パルプ・紙・同製品は、2017年の8月から対前年比がプラスに転じ、本年入って以後は前年比の増加率が徐々に大きくなり、本年3月はプラス5.2と、2015年以降前年増加率が最も大きくなっている。一方、非鉄金属では昨年9月から、農林水産物は昨年12月から、前年増減率がマイナ

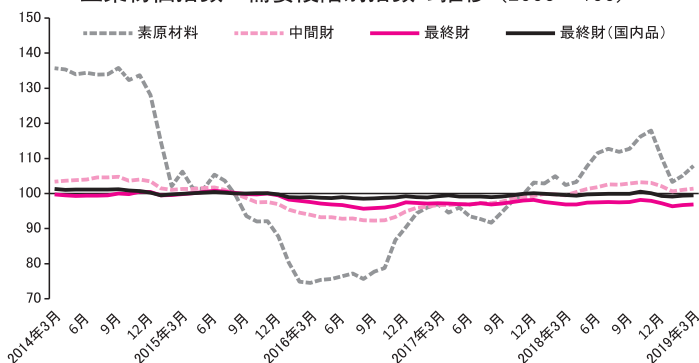
類別企業物価指数 前年増減率の推移



スとなっていた。

企業物価指数を需要段階別にみると、本年3月は、素原材料の指数は107.9（前月比プラス2.7%、前年比プラス5.4%）、中間財の指数は101.4（前月比プラス0.4%、前年比プラス1.9%）だった一方、最終財は96.9（前月比プラス0.2%、前年比マイナス0.1%）、最終財（国内品）は99.5（前月比プラス0.1%、前年比マイナス0.1%）となっている。2017年12月くらいから、素原材料、中間財の指数が、輸入品を含めた消費財、もしくは消費者物価指数と関連が深いといわれる国内品の最終財の指数を逆転して推移しており、「川下への下押し圧力が強まる」との見解もある。

企業物価指数 需要段階別指数の推移（2005=100）



（資料出所は、すべて日本銀行企業物価指数）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売は、やや増加。一部に景況感が好転した業者も見られた。こうした業者では、先行きも上含みという。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。雇用面は現状維持との声が多い。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、業者により増減分かれる。前年比は減少。景況感が好転した業者は見られない。「設備投資の後ろ倒しは変わらない」「調整中だが、まずまずの受注がある製品もある」「全般に受注が鈍化しているが、一部の製造工程向けで引き合いが増えているものがある」「FPD関連減少」などの声が聞かれ、先行きもこうした状態が続くとの見方が多い。原材料、資材価格に当月大きな動きはなかった様子。雇用面では、「新卒者複数名、技術経験者募集」「常に募集中」などの声。設備面では積極的な声が少なくない。

産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、やや増加した業者も見られるが、減少～横ばい。「一部で5、6月の予定も入った」「大物の製品は安定的に動いている」「納期の長いものも増えた」「社内業務を選別する必要が出てきており、外注比率を高めている」などの声が聞かれた一方、「一時的に仕事が集中しても、また谷に入ってしまったて良くない」「客先には依頼がゼロとなった先もある」「溶接で動きがあるが、全体的に良くなってこないとの声が多い」「景気は悪化した感」「売上ダウン」などの声も聞かれた。こうした中、景況感が好転した業者は見られないものの、悪化した業者もさほど多くはなく、横ばいとする業者が多い。先行きに関しても、悪化もしくは「秋頃まで

はこんな感じかと思われる」など現状が続くとの見方が多い。

原材料、資材価格では、大きな変化はなかった様子も、「ガソリン代上昇」「アルミが値下がり」などの報が寄せられたほか、「鉄材は上昇したが、製品単価を上げるまでは至らない」などの声。雇用面は現状維持の様子も、「目下は多少過剰感あり。先行きは恐らく解消するだろう」「定年退職者対策として女性パートをオペレーターとして育成中」「募集中」などの声も。設備面では現状維持との声が多いが、「投資あり」「もの補助利用を検討中」「年後半に予定」などの声も聞かれた。

建築用金属製品の販売は、前月比やや減少も、受注が増加したこともあり、「全体的に好調」など景況感も好転との声が寄せられた。先行きもこうした状況が続く見込みという。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「鉄関係は上昇」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比やや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。先行きに大きな動きは見込まれていないという。

光学機器部品の販売は、前月比、前年比ともやや減少、景況感も悪化との声。先行きも弱含みという。

小型電磁機器の販売は、前月比概ね横ばいも、一部に景況感が悪化した業者も見られたほか、先行きも弱含みとの声が多かった。原材料、資材価格がやや上昇との声。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

FA関連モーターの販売は、前月比、前年比ともやや減少、「産業機械向けが減少で推移している」「米中貿易摩擦の影響が国内販売でも出ている」など景況感も悪化との声が寄せられた。先行きも弱含みという。原材料、資材価格が上昇基調にあるとの声が聞かれた。

電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。先行きも弱含みという。雇用面の不足感は続いている様子。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。一部に、前年比は若干減少との声が聞かれた。「一般消費は低調なまま」「プライベートブランド向けが低調」など景況感が悪化した業者も見られた。「包材、段ボール、運賃」の上昇が続いているという。雇用面では現状維持の声の様子。設備面で積極的な声が聞かれた。

水引製品の販売は、前月比横ばい～増加。前月比が増加している業者にあっても前年比はやや減少しているという。「段ボール等」を始めとして原材料、資材価格が上昇しているが、これに対し「原材料、包装資材の値上りを自社製品に反映させたが、取引先からはおおむね肯定的な反応。運賃、送料の値上りについても対応中」「販売数は例年並みだが、材料費を転嫁したため売上は増加」などの声が聞かれた。「相変わらず販売が伸びず困惑。先の見通しが立たず廃業する販売先が増えている」との声も聞かれる中、「新市場開拓に努める」「益々新商品開発が重要。打つ手はあると思う。業界全体の課題と捉えて前進したい」などの声も寄せられた。「飯田水引で国の伝統的工艺品指定を得るよう調査を進めていたが困難も少なくない。時間はかかりそうだが、業界のためにもスムーズに事が進むことを期待している」との声。雇用面、設備面で大きな動きは見られない。

漬物の販売は、前月比やや増加も、「野菜が安い影響か、浅漬け類の動きは良くない」との声が寄せられた。原材料、資材価格に関し、「調味料、物流、資材など値上げの話が来ている」という。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比概ね横ばいとの声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。

印刷、出版関連の売上は、前月比、前年比とも増加との声。「当月は例年売上が増加するが、今年はスポット品や、選挙があったことなどから良かった」との声が聞かれた。「印刷用紙の値上げに続き、コピー用紙、紙製資材も値上り。インキ値上りの話も出ている」など、当月も原材料、資材価格の値上りを伝える声が聞かれた。雇用面で積極的な声。「近時はフリーペーパーも印刷営業に力を入れる傾向があり、時として競争になるケースもある」という。

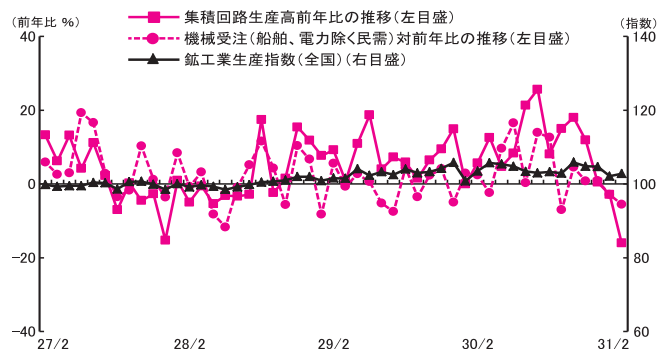
衣料品の販売は、前月比、前年比ともやや増加の様子。「以前からの傾向だが、個性のあるもの、オリジナル性のあるものが、価格に関係なく売れている」「国内販売よりも海外販売の方が売れ行きが良い。また、国内消費はインバウンド消費に負うところが大きい」などの声が寄せられた。引き続き原材料、資材価格が上昇基調にあるという。雇用面では「依然若手のワーカーは不足。ぜひとも若手の職人を育てていきたい」との声が寄せられた。設備面で積極的な声。

住宅機器、オフィス家具、店舗用什器等家具の生産は、前月比、前年比ともやや減少、「3月から消費動向が冷え込み始めたが、更に広範に悪化している感」との声が寄せられた。「3月まではどこも満帆だったが、4、5月からは受注に陰りが見えそう」「5月以降の冷え込みが強そうとの声も聞かれる」など先行き弱含みとの声が多い。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。

【企業からのコメント】

- ★大手企業では来期増収増益を見込む声もあるが…。
- ★地方の専門店も独自のデータを販売につなげることができるのでは。
- ★コンセプトにサステナブルを明確にしたものづくりを進めていきたい。地球環境を守るためにも、無駄を排除し再利用にも配慮した商品開発が必要だろうと思う。
- ★製造業中心に在庫調整の話がある。
- ★新規顧客からの受注もあり、好調。
- ★工業国日本は、20年前までは通用したが、今では乗り遅れて5番目の列車に乗った感。目下は「ゆでガエル」状況下の景気悪化のように感じる。

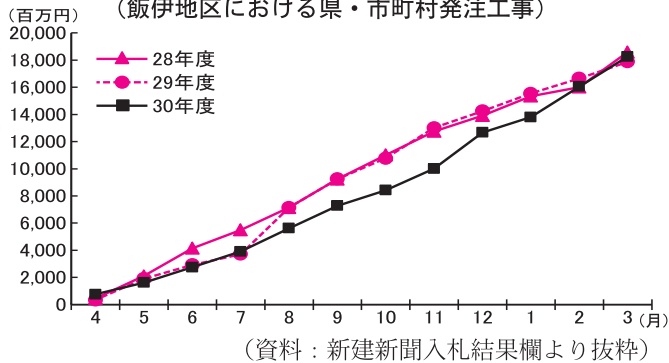
集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



建設業

入札額累計の推移

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新設新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI -15.4 (前月 7.1)

翌月予測DI -21.4 (前月 -12.5)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約22.1億円となっている(4月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、「前年に比べると受注額は増加」「土木、建築とも、少額とはいえ受注の機会があった」「完成工事が多くなっている一方、受注残は減少」など、増加した業者、減少した業者ともに見られるものの、概ね横ばいとの声が多い。

先行きに関しては、「県では防災、減災工事、道路改良工事が発注され、前年並の感。国の三遠南信自動車道関連などインフラ工事、市町村のエアコン設置工事なども発注になった。4月以降も仕事が切れることはないのではないか」「災害関連工事の発注は、思ったほど多くないのでは」「4月の開札では元請、下請ともに確保を目指す」「年度末ながら未成工事が残っている。当面十分な仕事がある」などの声が聞かれた。

「『防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策』に基づく発注が、徐々にだがある。しかし目下のところ工事量が少なく、受注競争が激化してなかなか取り込めない。また、発注の平準化も遅れていて、例年通り気候の良い時に発注が少ない」との声も。

雇用面で「4月から1名入社」との声が聞かれたほか、「引き続き技術者が不足」「技術者も不足しているが、特に営業を必要としている」「施工職員募集」「求人活動は続ける」などの声。また、資材価格に関し「材料、燃料、二次製品等徐々に値上り」「資材価格の値上りは多い」などの声が聞かれた。

民需

当地区の2月の住宅着工戸数は40戸。前月比29%減少、前年比も26%減少している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。「民間工事はほとんど完工してきて手持が少ない」「受注したものはほとんど完成し、受注残高は減少」「公共、一般共に建築工事は相対的に少ないと思う」「土木は仕事があるが、建築は厳しいのではないか。同業の皆さんも良くやっていると思う」「小規模の改修工事しかない」などの声も聞かれ、景況感が悪化した業者も少なくない。一部に施工単価が上昇しているとの声も。雇用面で、「4月に新人複数名」「不足感がある」などの声が聞かれた。

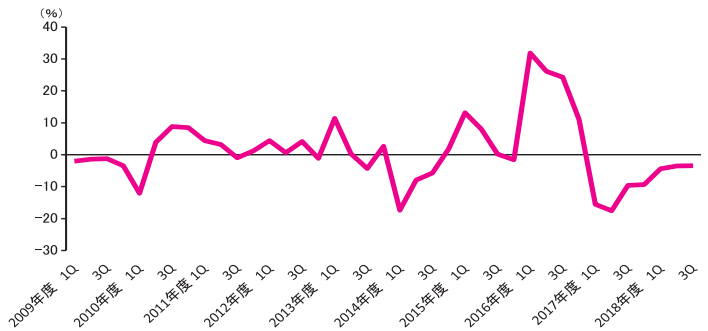
住宅ローン新規貸出額の推移

以下のグラフは住宅金融支援機構が日本銀行統計に加え、各業界団体等の協力を得て取りまとめた(※1)住宅ローン新規貸出額年度四半期計の、前年度同期比の推移を表したもののだが、これによると直近では2017年度第1四半期から住宅ローンの新規貸出額は前年同期

を下回って推移している。

(※1 信託勘定を除く国内銀行、信用金庫、信用組合、全国信用協同組合連合会、労働金庫、生命保険会社、住宅金融専門会社等、住宅金融支援機構の合計。全国共済農業協同組合連合会は含まれていない。)

住宅ローン新規貸出額(年度四半期計)対前年同期増減率の推移



(資料：住宅金融支援機構「業態別の住宅ローン新規貸出額と貸出残高の推移」)

建設資材

建材の売上は、前月比やや減少、景況感も悪化との声。先行きも弱含みという。仕入価格がやや上昇している一方、販売価格への転嫁は進んでいない様子が見える。

鋼材の売上は、前月比、前年比ともやや増加も、「予想よりも良いペースだったと言えるが、流通は決して良くなく、全体の状況は楽観できるような材料はない」など景況感の好転には至っていないという。「仕入先から量的な確保が難しいとの話がある。加えてトラックの確保に苦労していてコストの上昇が懸念される」などの声が寄せられた。鋼材価格は「概ね横ばい」という。

生コンの売上は、前月比、前年比とも調査先により増減分かれる。「主な出荷は、三遠南信自動車道工事、バイパス工事、護岸工事、工場・倉庫建設工事、リニア関連工事に関わるもの」という。「河川の災害関連工事等が始まったが、本格的な動きに至らず、出荷量はあまり増加していない。順調に工事が動き出し、出荷量が増加することを期待」などの声が寄せられた。「JR発注のリニア関連工事の出荷量は前月より減少」という。

骨材の売上は、前月比は調査先により増減分かれるものの、前年比はやや減少。「年度末でそれなりに忙しかったが、例年ほど慌ただしくなかった」「公共工事の発注は多かったようだが、まだ出荷にはつながっていない」などの声。一部に雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

【企業からのコメント】

- ★地元業者は災害関連の工事が受注でき、今後数か月忙しくなりそう。
- ★建築系よりは土木系の動きの方が若干良いように感じる。
- ★年度末を迎え増工があり、工事高は増加。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

3月 ○飯田建設事務所分

新築 13件 (前年 6件)

増築 1件 (前年 2件)

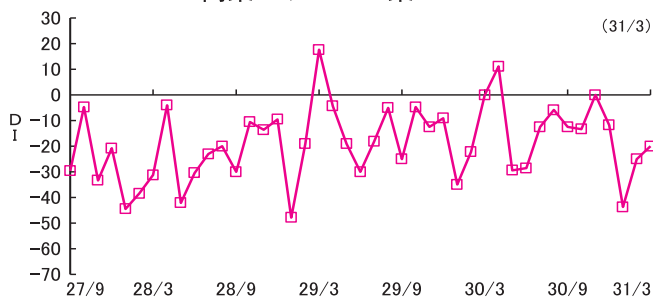
○飯田市役所分

新築 34件 (前年 20件)

増築 0件 (前年 1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-20.0 (先月 -25.0)
翌月予測DI	7.1 (先月 11.8)

商業

食品の売上の前月比は、業者により増減分かれるが、横ばい～増加との声が多い。一部に、「前年同月は一昨年比減少していたが、今年は目下のところ状況は良い」など前年比増加との声も。仕入価格が上昇しているとの声も多く、「3月からメーカーの値上げが始まった。4月以降も各メーカーの値上げが予想される」などの声。とはいえ「追従して売値を上げるのはなかなか難しい状況」という。一部に雇用面で積極的な声が聞かれた。

【青果卸売市場】

販売は前月比増加も、前年比やや減少、先行きは増加を見込んでいるという。

野菜は、「依然として安値が続いている。特に白菜、キャベツは前年の4割の価格で推移し、全体では、入荷量8%減で、価格も16%安と、4か月連続の安値基調だった」という。

果実は、「柑橘類は昨年が不作による入荷減で高値だったが、今年ではほぼ平年並みの入荷で価格もほぼ平年並み。果実全体では入荷量前年並み、価格は4%高だった」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感に動きは感じられないとの声。先行きはやや弱含みという。仕入価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。

電化製品の売上は、前月比やや減少も、前年比横ばいとの声。「年度末に伴い設備改修等がある。学校関連の事業は先月同様進行中」「輸出している得意先の設備投資に停滞感がある。一方、公共工事が良く、全体ではほぼ例年並みの内容」などの声が寄せられた。

家事用品の売上は、前月比増加も、前年比やや減少、「紙類の値上り、欠品が多く、売上もできない。花粉症対策用品も入荷しづらい。今までにない紙不足」「運賃の値上がりが大きく影響している。かといって販売単価を上げることは難しい」などの声が聞かれ、景況感も悪化している。「消費増税対策に費用が掛かり、カード決済もややこしくて不安になる」との声。

娯楽用品の売上は、「新キャラクターの発売」があり前月比若干増加。前年比は「トントン」という。

土産物の売上は、前月比概ね横ばい、景況感にも大きな動きは感じられないものの、先行きは販売の増加を見込んでいるとの声。商品在庫も積み増している様子が窺える。当月も仕入価格が上昇基調にあるという。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比55%増加も、前年比は5%減少。中古車は、前月比61%増加、前年比も10%増加。2月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比12%増加、前年比も4%増加。中古車は、前月比9%増加、前年比は概ね横ばい。

サービス業

市内料理店の売上の前年比は、業者により増減分かれる。「小人数でも、いいペースで宴会が入った。と

はいえ、景気が良くなっている感じはない」「日々忙しく感じた3月だが、数字が出てみるとここまで落ち込んでいることに驚いている。もっとも1月に同様な感じがあり、2月に回復したので、今月の数字の良し悪しも4、5月を見ないと何とも言えない。とはいえ、我々飲食業の景況感、とみに悪化している感もある」「4、5月に期待したいが、経験のない大型連休で地域に果たして人が残っているのか、真価が問われる連休になりそう」「飲み放題の需要が多い。また、家族連れが少なくなっている他、若いお客様では週末に予約が重なる傾向があり、機会を失っている」「市内の料理店は飽和状態に思えるが、同業他社はかなり頑張っている」などの声が寄せられた。仕入に関し「鮮魚は落ち着いているが、全体ではじわじわ値上がり。お客様に満足いただける価格設定を考える」との声が寄せられた。

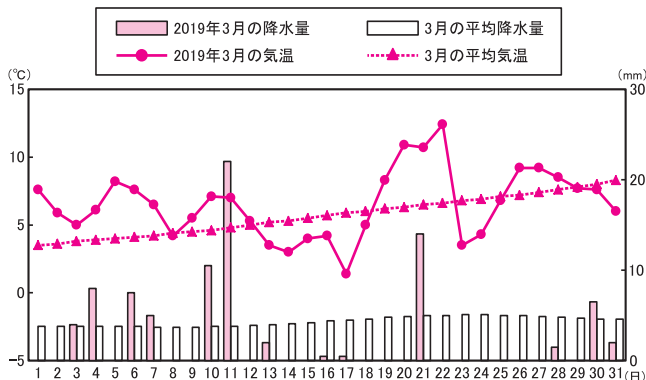
昼神温泉の売上は、前年比やや減少。「中旬まで非常に静かで、人の動きが例年と違って感じるように感じた」などの声。先行きに関し、「桜の開花が遅れるとの報。天候に左右されるが、桜、花桃、星空と条件を整えば客足は伸びるのでは。大型連休の予約状況も良好」「4月中旬からナイトツアーが始まるが、予約は明らかに少ない感。チケットの購入方法を始めツアー全体の運営方法が変わったが、お客様の利便性を損ない、お客様の減少につながっているのでは。他の地域でも同様のツアーが始まっていることもあり、今後のお客様の減少を心配している」などの声が寄せられた。人手不足に関し、「全体が高齢化。連休中一時的に仲居さん不足」「人手不足で満館にできないのはつらい。行き届かなければクレームの元だし、働く側も休みがなければ続かない。どうにもならない」などの声が聞かれた。

タクシーの売上は、前月比増加も、前年比やや減少との声。「一般のお客様の需要拡大は厳しい状況。特に夜間需要が伸び悩み」などの声が寄せられた。「各社とも高齢化と新規労働者の確保が困難なことから稼働率が低下している。働き方改革の影響もあり、業界の労働環境、労働時間を根本的に再検討する必要に迫られている。こうした中、運賃改定に必要な申請要件を満たし、監督官庁の審査を経る段階となったが、改定による労働環境の改善を通して、機動力を確保できることを期待」との報が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★新卒者4名採用。今後も1名増員予定。
- ★32年度の新卒者採用活動を開始した。
- ★人手が若干不足。補充を予定している。
- ★10名募集。
- ★消費増税対策は誰でも分かる方法にしてほしい。
- ★キャッシュレス決済の促進が言われるが、カード加盟店にとっては手数料が高すぎるように思う。地方経済にはマイナスの影響もあるのではないかと。
- ★後継者が戻ったが、それだけで安心はできないと思う。今日この頃。子供の範となれるよう一層の努力をせねばと思う。

飯田の気温と降水量



中小企業の人手不足を考える。

飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課
中小企業支援アドバイザー 佐々木信高

今、日本では少子高齢化や人口減少が進み、労働者の人手不足は深刻化の一途をたどり、人件費や物流費の高騰は中小企業にとって大きな課題となっています。人手不足倒産も相次ぎ、国も日本経済の成長阻害要因と捉えています。労働者側は「有効求人倍率」が1.63倍(全国 2月)という高水準で推移していますが、求人側の中小企業は、4月から始まった「働き方改革」や「入管法の改正による外国人労働者の雇用拡大」によってどのような影響が出てくるのか今後注視していく必要があると思います。

企業訪問をすると、「ハローワークや民間へ求人を出しているがまったくダメだ、誰かいらないか?」と問いかけられる機会も多くあります。将来に亘って労働力人口に期待が持てない中、藁をも掴みたい中小企業の皆さんの気持ちを考えると、何か良い方法はないものかと考えあぐねてしまいます。

下表は、日本政策金融公庫の「全国中小企業動向結果(2018年10月-12月期実績)」の中で、当面の経営上の問題点について聞いたものですが、33.7%が「求人難」と回答をしており、ここ数年、求人難は経営者の共通問題となっているようです。

中小企業者が抱える経営上の問題点の推移 (単位：%)

	2017 7-9	2017 10-12	2018 1-3	2018 4-6	2018 7-9	2018 10-12
売上・受注の停滞、減少	29.9	28.0	26.8	27.1	26.0	25.3
製品ヤス値下げの要請	3.3	2.9	2.9	2.9	3.0	2.7
生産能力の不足	6.6	6.9	6.7	6.1	7.6	7.4
原材料高	7.7	9.5	10.9	12.2	11.8	12.1
人件費や支払利息等の増加	5.3	5.6	4.4	5.2	5.6	5.4
合理化不足	5.0	5.0	4.9	5.0	4.7	4.8
代金回収の悪化	0.4	0.4	0.3	0.6	0.5	0.4
借入難	0.6	0.7	0.7	0.8	0.7	0.8
求人難	34.0	34.1	35.4	33.5	33.5	33.7
その他	7.2	6.8	7.0	6.5	6.7	7.4

(日本政策金融公庫「全国中小企業動向調査結果 2018年10-12月実績」より)

既に、中小企業は、労働力のターゲットを高齢者や子育て中の女性等にも向け、生産性を上げるために機械化、IT導入、多能工化への手段を講じていますが、全ての業種で対応できるものでもありません。

中小企業の採用方法といえばハローワークや民間の求人機関を利用することが一般的ですが、最近、新たな採用方法である「リファラル(紹介・推薦)採用」という方法が注目され始めています。

リファラル採用とは社内の従業員から紹介してもらった友人や知人などを対象に採用選考を行う手法です。昨年6月に、東証一部上場した「㈱メルカリ」は従業員の60%を社員からの紹介による採用をしているそうです。この方法はアメリカでは一般的で、日本でも徐々にIT企業やベンチャー企業に浸透し始めており人手不足が慢性化しているサービス業のモスバーガーや、すかいらーくグループのアルバイトやパート採用でも実施されているようです。とはいえ、日本の縁故採用やコネ採用のように、紹介された人物の適正やスキルによらず紹介者の縁故だけで採用試験や選考基準を通さずに採用される方法とは違うようです。

この方法のメリットは、①求人媒体の掲載や人材紹介会社を通じての採用方法と比較して採用コストを低減できる②社風や自社の文化、勤務形態、スキル状況を知っている社員の紹介ということもあり、質の高い人材を確保できる③入社後、採用された従業員の悩みについて紹介者がフォローすることで定着率も高いという点です。

一方、①同年代や同じスキルや価値観を持った人材(似たタイプ)が集まる傾向があり、意思決定に影響が出る可能性がある②不採用になった場合の本人と紹介者の関係が悪化することもある③紹介者の退職後に、モチベーションが低下することがある④紹介者の報償制度を導入する際に高額な報償を提示すると、会社に合わない友人や知人を紹介してしまう等のデメリットもあるとされます。



リファラル採用は、人が主体となって動くことから、「本当に紹介したいと思える会社」という認識が紹介者である従業員の中に浸透していないと、前提から崩壊することになります。また、メリットやデメリットを正しく理解するとともに、なおかつ「労働基準法の第6条の中間搾取の排除」や「職業安定法の第40条の報酬の供与の禁止」の法規制(下記の参考に掲載)なども注意して導入を検討しなければ、思わぬ落とし穴に落ちかねません。

従業員側からみると「フルタイムは難しいが時短勤務なら」とか「週に数日なら」とか「兼業可能なら」と様々な働き方を求めています。企業が多様な人材を求めるなら、人手不足の状況だからこそ採用方法も変えていかないと労働力を確保できません。リファラル採用は、従業員にとって「魅力的な職場、やめたくない職場」であり続ける職場作りが会社にとっては重要です。まずは、人材を見つけるきっかけをつくり、採用ステージにおいては、通常採用の選考を基準として、採用する方法を取り入れることも一考ではないでしょうか。

〈参考〉

*〈労働基準法第6条 中間搾取の排除〉

何人も、法律に基づいて許される場合の外、業として他人の就業に介入して利益を得てはならない

*〈職業安定法第40条 報酬の供与の禁止〉

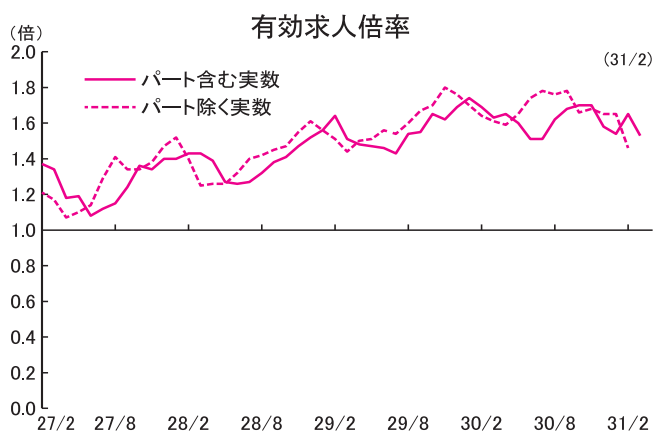
労働者の募集を行う者は、その被用者で当該労働者の募集に従事するもの、又は募集受託者に対し、賃金、給料、その他これに準ずるを支払う場合又は第36条第2項の認可に係る報酬を与える場合を除き報酬を与えてはならない。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

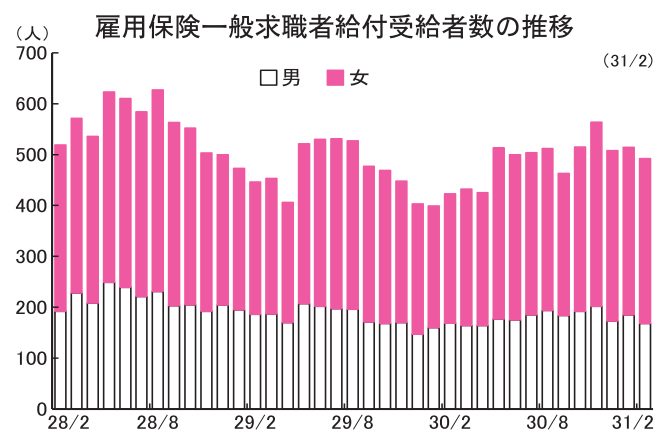
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 佐々木信高 は、商工会、商工会議所で地元中小企業の支援業務に長く携わった経験を基に、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課(飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132)まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



2月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.38倍と、前月から0.15ポイント低下。パートを除く実数も1.46倍で、前月から0.19ポイント低下している。



2月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は17人減少、女性も5人減少。全体では492人と前月から22人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)

リニア新幹線と飯伊地域に寄せて ～ 青森大学 櫛引素夫教授にきく ～

全国の整備新幹線地域の調査・研究に取り組まれている青森大学社会学部の櫛引素夫教授が来飯された。櫛引教授に全国の新幹線地域の状況を踏まえて当地域への思いを伺った。

■ 新幹線の呪縛

私は大学卒業後東奥日報（青森県の県紙）に就職し記者としてスタートしたが東北新幹線をはじめ新幹線取材を重ねる中で新幹線研究が高じ、現職に転じても引き続き新幹線を「生業^{なりわい}」として今日に至っている。

東海道新幹線が最初東京～大阪間という日本の大動脈に投入された。田中角栄氏が新潟へ上越新幹線を引いたとされ、盛岡・仙台と新潟を皮切りに、高速鉄道を全国に展開する構想が整備新幹線5線になった。

全国各地での調査・研究を通じて痛感するのは「新幹線」という言葉の持つ魔力であり、新幹線がその地域の行政や民間の対応力、企画力など「総合力」を映し出す鏡であることである。飯田訪問に当り飯田市の施策をざっと見たが、良い意味での手づくり感が感じられる。他の地域には省庁の資料を写したような印象のもの、ほぼ外注したと想像されるものもある。また当地域では、南信州広域連合の「リニア将来ビジョン」が上位の計画としてあり、その下で各施策が展開しているというのが優れていると思う。

これまで、整備新幹線に取り組んできたがリニア新幹線は意識的に避けていた面がある。リニア新幹線は整備新幹線とはスピードの次元が違うなど性格が異なり、手に余ると考えていたから。ただ、この頃リニア線幹線についてコメントを求められる機会があり気になっていた。本日、大鹿村の釜沢まで出向いてその地形に圧倒された。光景は、東北新幹線の八甲田山トンネルがやや印象に近いが、このようなところに新幹線が建設されていく営みは想像を超えるものがある。

感じるのはリニア新幹線が「見えない」こと。整備新幹線はトンネルが続く地帯を走ることはあるが、それでも「車窓の景色を眺めて」という趣は残っている。しかしリニア新幹線は殆ど地下を走る。景色を見る、あるいは「旅をする」という概念はなくなるのでは。リニアの乗客が果たして乗車中に駅弁を食べるか、ということも気になってくる。また地域の方にとっても、間もなく地上部の工事が始まるのでやや見えてくるというものの、リニア新幹線は殆ど地下を走り、地上部もフードで覆われていて、従来の新幹線とは存在感など乗り物としての様々な性格が違ってくるのではないか。



青森大学社会学部社会学科教授・博士 略歴

1962年 青森市生まれ
1987年 東北大学大学院理学研究科地学専攻（博士前期課程）修了
同年 東奥日報入社
2006年 弘前大学大学院地域社会研究科（後期3年博士課程）修了
2013年 青森大学社会学部准教授
2016年 青森大学社会学部教授



大鹿村大西公園にて

■開業効果と新幹線効果を混同するな

これらの言葉を混同して使っている人は非常に多い。新幹線が開業して何人乗り降りするようになった、観光客が何人来るようになった、これを新幹線効果としている人がいるが必ずしもそうではなく、開業効果（開業特需）を示す指標の一つに過ぎない。開業後何年かで乗降客は減り、それだけ開業特需による経済効果は落ちることになる。私は、真の新幹線効果は地域経営のバージョンアップが成るかだと思っている。八戸市は新幹線開通事業を通じ、地域が自信を持つことができ、更にその後の事業に積極的に取り組めるようになった。地域が自信を持った、というのが特徴であり新幹線効果だと思っている。

開通後アンケートで、「帰省の回数が増えた」という回答が各地で意外と多いことが判った。それが家族の介護を支えることにもなっている。また、高岡市出身の女性が、都内で勤務していて休日に帰り、地元の地域活動に取り組む「10% for HOME」という活動を提唱・実践している事例もある。このようなQOL（生活の質）に関する部分こそが新幹線効果といえるのではないかと思う。

■新幹線駅について

新幹線駅はこうあるべきという思い込みや既成概念は邪魔、捨てる必要がある。飯田市議会の新高岡駅視察で高層階のホテルが駅前に立地していることについて「景観上残念と感じた」など複数の否定的な感想が出た、との記事（本誌No.476、2018/11）には飯田の人の見方はとてもユニークと感じた。一般に整備新幹線沿線では「駅前に商業ビルが建たない＝計画の失敗」という認識が一般的。新青森駅などは、駅前にホテルすら建っていないと市民に酷評されている。「ビルがない」ことが全てで、計画の成功・失敗の判断基準。八戸でも、八戸市や八戸市民は駅ビル建設に深くこだわった。しかしそれが妥当かどうか。

私が、全国の整備新幹線駅で最も好ましいと感じているのは飯山駅。飯山駅の観光案内所は「みんな寄ってよ・こっち来てよ」オーラが漂っている。しかし、他の新幹線駅の案内所には「こっちに寄るな、来るな」オーラを感じる事例もある。実際飯山駅では、地域の人が新幹線利用でないのにふらっと立ち寄り、高校生がデートに利用していたりもする。

北海道の木古内町では新幹線駅の正面に道の駅を開設し、道の駅は1年で利用者55万人、開設2年目に道内の満足度ランキング1位を獲得している。また駅前にセレモニーホールができて新幹線駅がある。駅整備については何でもあり、と思う。

リニア長野県駅が地域のコミュニティ維持のために「どんど焼き」などができる広場をつくるそうだが、とても良いことだと思う。新幹線駅がどのような姿になるのか。あと10年弱というもののこの先社会状況がどうなるか予測がつかない面があるが、以下のことが言えるのではないか。一つは新幹線駅と防災という観点。もう一つは新幹線駅とSDGs。SDGsの概念はあと十年くらいは持つと思うが、持続可能性を確保するため駅をどのようにしていくのか。飯田は環境問題で先進的な取り組みをされているところであるが更にSDGsに展開して駅づくりに取り組んでいくといろいろ知恵が出てくるのではないか。



北陸新幹線飯山駅（リニア対策課撮影）

櫛引先生は、これまでの新幹線調査に関する連載記事を東洋経済オンライン（<https://toyokeizai.net/>）に掲載されています。

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）

改元記念特集

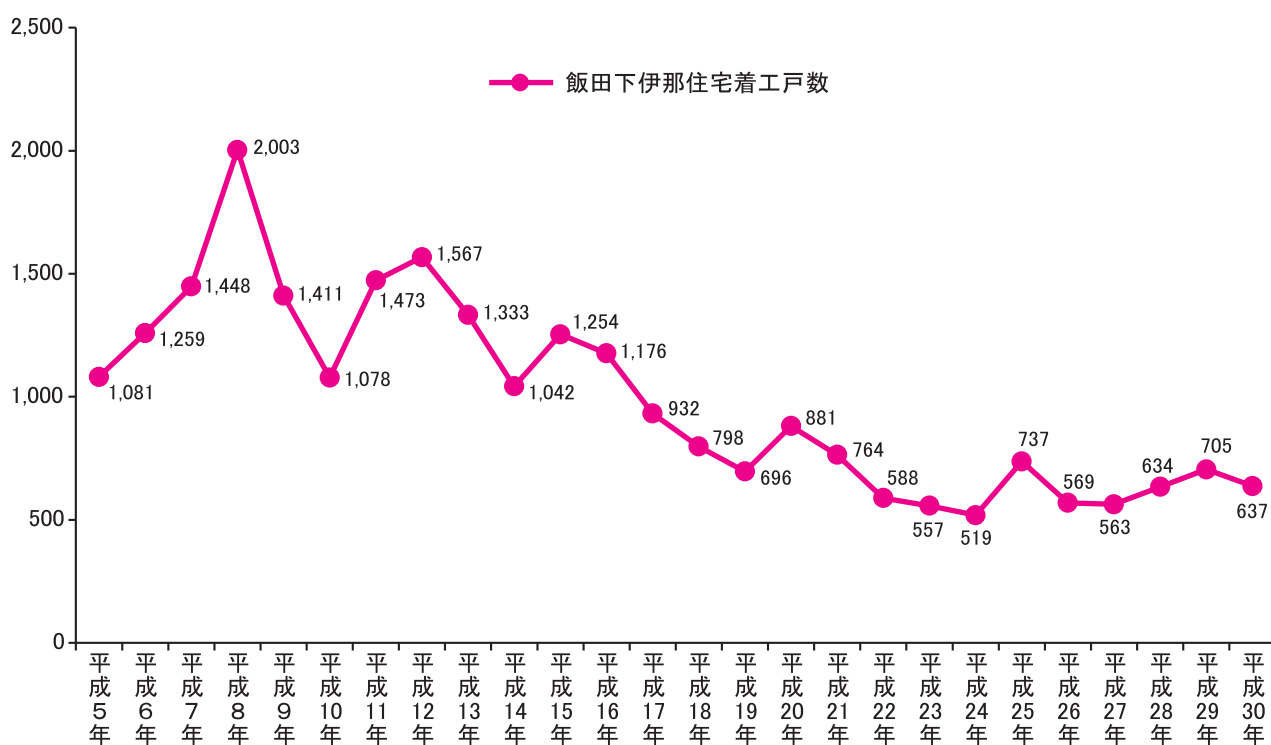
～あの時、あの頃～ 平成30年間の諸指標の推移（2）



飯田信用金庫新本店 平成18年9月19日 営業開始

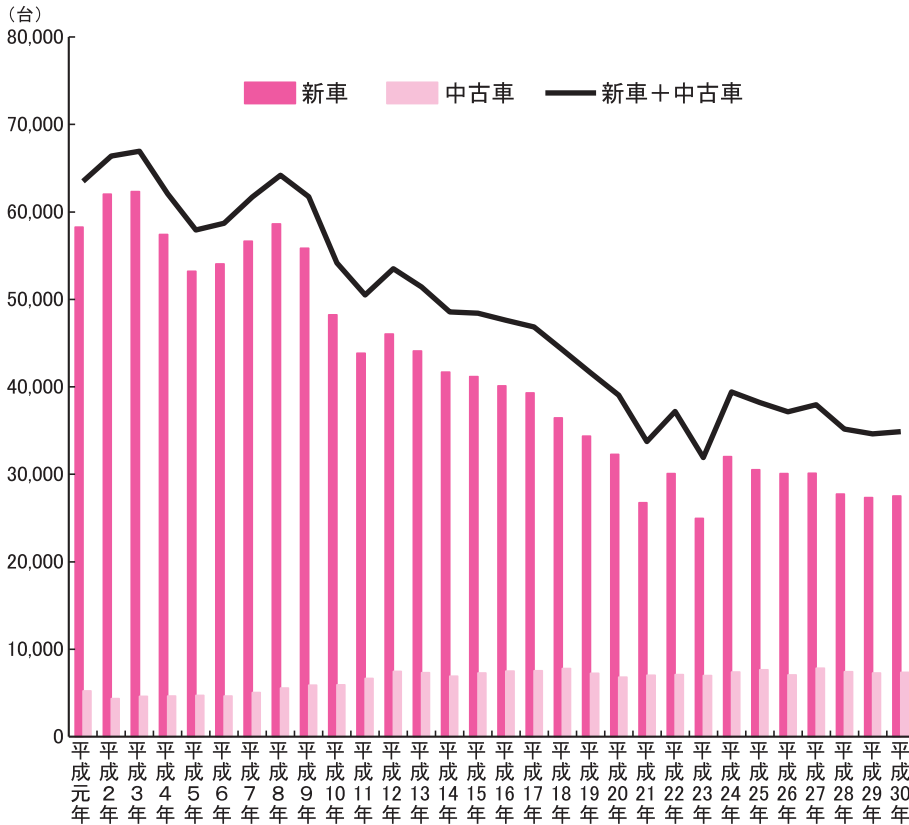
飯田信用金庫地域サポート部
南信州地域研究所

飯伊地区住宅着工戸数の推移



(資料：長野県建設部住宅課)

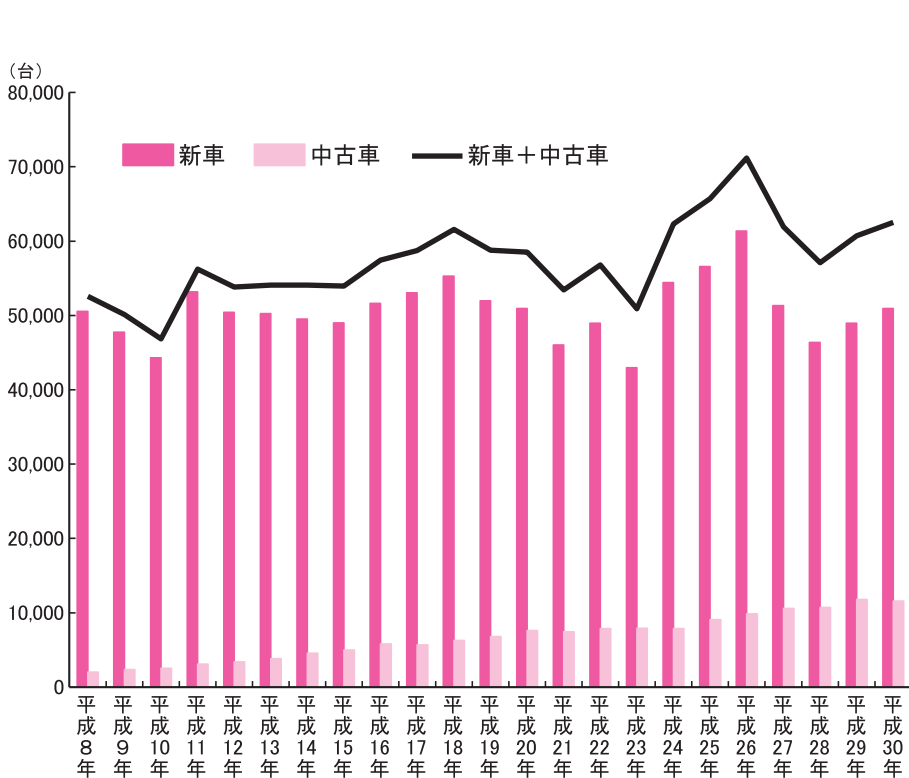
自動車新車登録台数（松本自動車検査登録事務所管内）の推移



暦年	新車	中古車	新車+中古車
平成元年	58,265	5,219	63,484
平成2年	62,034	4,341	66,375
平成3年	62,319	4,604	66,923
平成4年	57,403	4,656	62,059
平成5年	53,197	4,718	57,915
平成6年	54,053	4,658	58,711
平成7年	56,668	5,052	61,720
平成8年	58,626	5,555	64,181
平成9年	55,857	5,877	61,734
平成10年	48,240	5,934	54,174
平成11年	43,845	6,662	50,507
平成12年	46,028	7,468	53,496
平成13年	44,108	7,318	51,426
平成14年	41,674	6,908	48,582
平成15年	41,159	7,267	48,426
平成16年	40,111	7,489	47,600
平成17年	39,305	7,536	46,841
平成18年	36,453	7,798	44,251
平成19年	34,367	7,260	41,627
平成20年	32,262	6,800	39,062
平成21年	26,741	7,014	33,755
平成22年	30,100	7,085	37,185
平成23年	24,943	6,983	31,926
平成24年	32,028	7,390	39,418
平成25年	30,532	7,660	38,192
平成26年	30,089	7,058	37,147
平成27年	30,124	7,819	37,943
平成28年	27,751	7,433	35,184
平成29年	27,349	7,274	34,623
平成30年	27,525	7,352	34,877

(資料：松本自動車検査登録事務所)

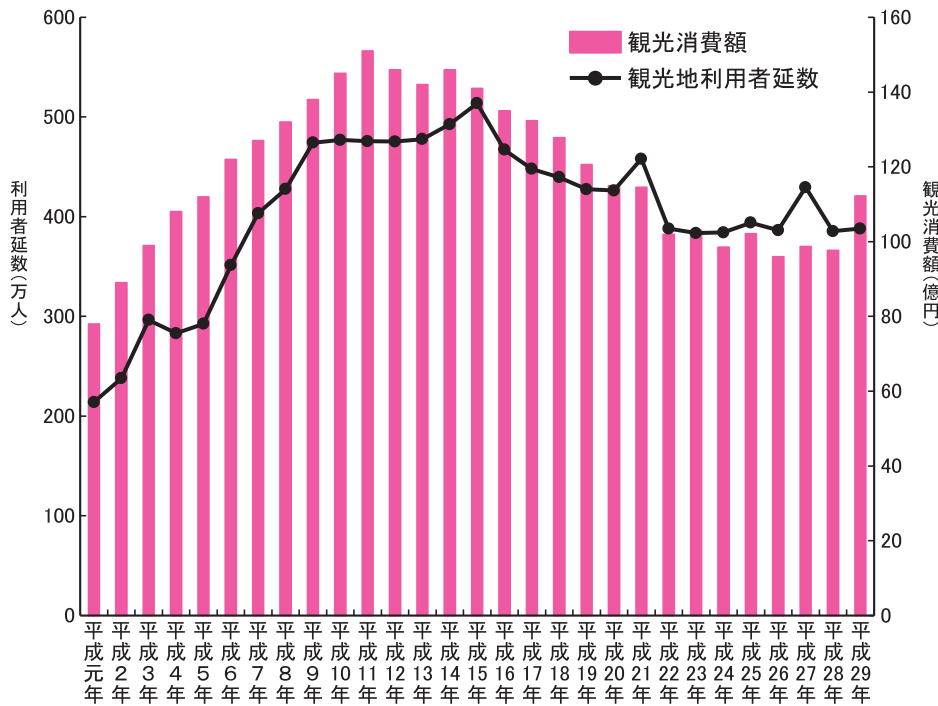
軽自動車新規登録台数（全県）の推移



暦年	新車	中古車	新車+中古車
平成8年	50,567	2,019	52,586
平成9年	47,769	2,357	50,126
平成10年	44,294	2,541	46,835
平成11年	53,177	3,077	56,254
平成12年	50,443	3,404	53,847
平成13年	50,271	3,828	54,099
平成14年	49,509	4,566	54,075
平成15年	48,995	4,974	53,969
平成16年	51,645	5,816	57,461
平成17年	53,032	5,698	58,730
平成18年	55,281	6,281	61,562
平成19年	51,963	6,804	58,767
平成20年	50,926	7,616	58,542
平成21年	46,022	7,432	53,454
平成22年	48,960	7,856	56,816
平成23年	42,995	7,898	50,893
平成24年	54,413	7,891	62,304
平成25年	56,602	9,100	65,702
平成26年	61,349	9,836	71,185
平成27年	51,336	10,601	61,937
平成28年	46,376	10,728	57,104
平成29年	48,951	11,773	60,724
平成30年	50,960	11,577	62,537

(資料：軽自動車協会連合会長野事務所)

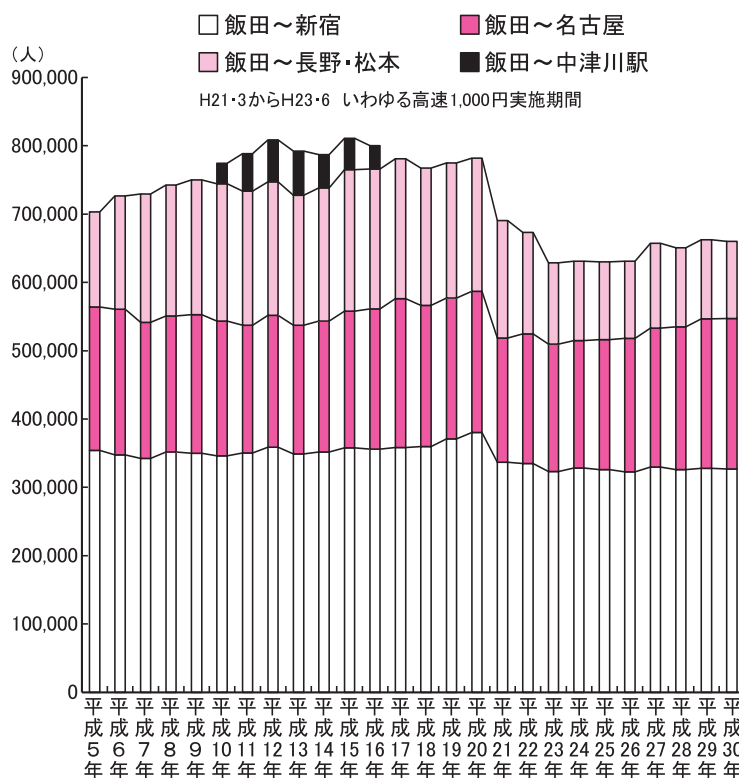
南信州地域振興局管内 観光地利用状況の推移



	観光地 利用者 延数 (万人)	観光 消費額 (億円)
平成元年	214	78
平成2年	238	89
平成3年	296	99
平成4年	283	108
平成5年	293	112
平成6年	351	122
平成7年	403	127
平成8年	428	132
平成9年	474	138
平成10年	477	145
平成11年	476	151
平成12年	475	146
平成13年	478	142
平成14年	493	146
平成15年	514	141
平成16年	467	135
平成17年	448	132
平成18年	440	128
平成19年	428	121
平成20年	426	115
平成21年	458	115
平成22年	388	102
平成23年	384	103
平成24年	384	98
平成25年	394	102
平成26年	386	96
平成27年	429	99
平成28年	386	98
平成29年	388	112

(資料：長野県観光地利用者統計調査)

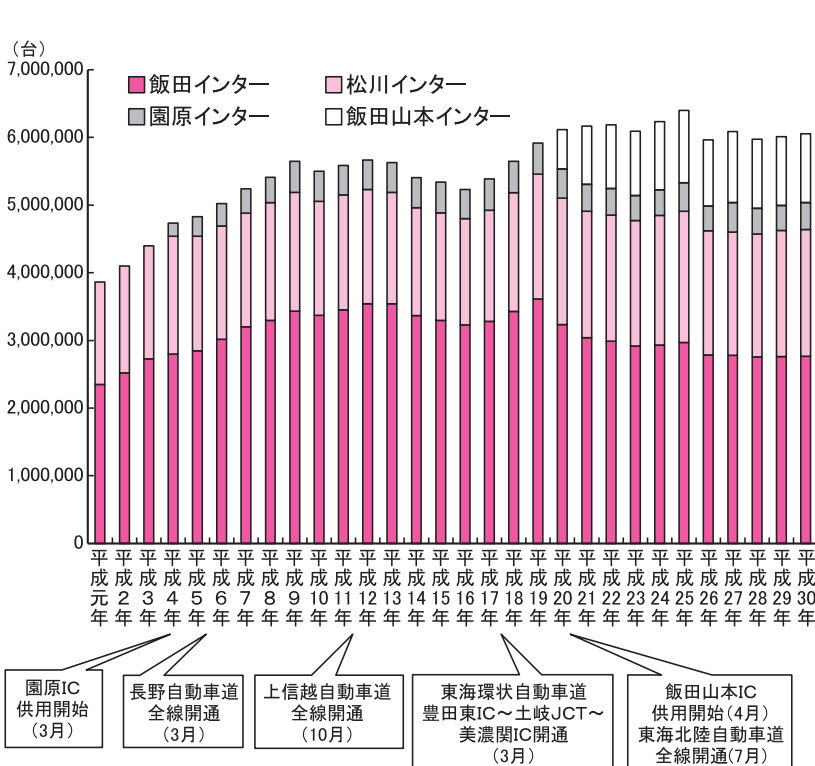
中央道高速バス乗車人数の推移



(人)	飯田～ 新宿	飯田～ 名古屋	飯田～ 長野・松本	飯田～ 中津川駅
平成5年	354,087	209,983	138,993	
平成6年	347,298	213,399	165,833	
平成7年	342,373	199,335	187,502	
平成8年	351,550	199,335	191,482	
平成9年	349,807	202,952	197,362	
平成10年	346,308	197,148	201,123	29,734
平成11年	350,440	186,952	196,301	54,871
平成12年	358,708	193,228	195,425	61,346
平成13年	348,993	188,476	189,882	64,987
平成14年	351,514	191,922	194,985	48,763
平成15年	357,761	200,148	207,305	45,566
平成16年	355,777	205,631	204,524	34,323
平成17年	358,516	217,499	205,105	
平成18年	359,790	206,638	200,968	
平成19年	371,058	206,079	197,572	
平成20年	380,289	206,621	195,049	
平成21年	336,713	181,910	171,714	
平成22年	334,765	189,908	148,505	
平成23年	322,932	186,915	118,624	
平成24年	328,149	186,582	116,485	
平成25年	325,892	190,248	113,743	
平成26年	322,878	195,359	112,889	
平成27年	329,654	203,315	124,261	
平成28年	326,157	208,771	115,843	
平成29年	327,875	218,764	115,698	
平成30年	327,033	219,979	112,882	

(資料：信南交通株式会社)
注：本数値にはトラビスジャパン高速バス分は含まない。

中央道4インターチェンジ利用台数(出入計)の推移

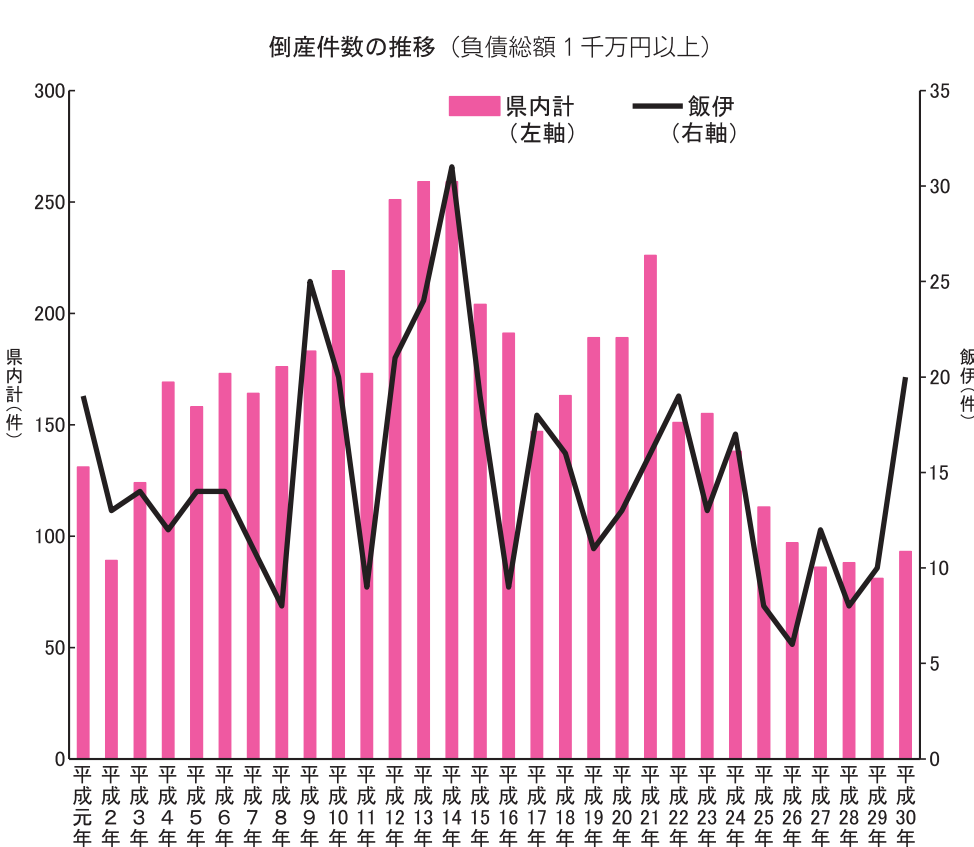


(出入計 台)

年	飯田インター	松川インター	園原インター	飯田山本インター
平成元年	2,347,870	1,513,516		
平成2年	2,521,080	1,577,906		
平成3年	2,729,149	1,666,098		
平成4年	2,797,444	1,740,400	193,884	
平成5年	2,845,213	1,696,048	288,726	
平成6年	3,017,484	1,670,983	331,643	
平成7年	3,201,877	1,678,836	358,713	
平成8年	3,294,985	1,741,211	375,307	
平成9年	3,430,496	1,756,469	459,793	
平成10年	3,369,915	1,685,889	443,414	
平成11年	3,449,884	1,699,086	437,378	
平成12年	3,540,983	1,689,877	436,284	
平成13年	3,543,857	1,644,482	437,879	
平成14年	3,365,447	1,594,461	443,379	
平成15年	3,297,965	1,585,067	453,748	
平成16年	3,231,599	1,567,577	432,070	
平成17年	3,281,359	1,640,487	463,841	
平成18年	3,429,735	1,750,776	463,237	
平成19年	3,612,416	1,845,051	458,425	
平成20年	3,232,876	1,867,793	430,856	584,364
平成21年	3,038,720	1,869,210	398,677	860,669
平成22年	2,989,200	1,864,582	391,039	938,008
平成23年	2,917,737	1,851,218	372,191	950,485
平成24年	2,933,104	1,913,719	376,518	1,010,571
平成25年	2,970,606	1,939,863	417,360	1,070,386
平成26年	2,782,563	1,835,138	364,566	979,398
平成27年	2,780,683	1,821,617	435,939	1,047,675
平成28年	2,755,469	1,819,412	375,892	1,022,578
平成29年	2,759,316	1,865,085	368,243	1,018,661
平成30年	2,765,376	1,871,062	398,573	1,017,497

(資料：中日本高速道路(株))

倒産件数の推移



(件)

	飯伊	県内飯伊以外	県内計
平成元年	19	112	131
平成2年	13	76	89
平成3年	14	110	124
平成4年	12	157	169
平成5年	14	144	158
平成6年	14	159	173
平成7年	11	153	164
平成8年	8	168	176
平成9年	25	158	183
平成10年	20	199	219
平成11年	9	164	173
平成12年	21	230	251
平成13年	24	235	259
平成14年	31	228	259
平成15年	19	185	204
平成16年	9	182	191
平成17年	18	129	147
平成18年	16	147	163
平成19年	11	178	189
平成20年	13	176	189
平成21年	16	210	226
平成22年	19	132	151
平成23年	13	142	155
平成24年	17	121	138
平成25年	8	105	113
平成26年	6	91	97
平成27年	12	74	86
平成28年	8	80	88
平成29年	10	71	81
平成30年	20	73	93

(資料：長野県南信州地域振興局商工観光課)

主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高速バス乗車人数							
	飯伊地区		飯田～新宿		飯田～名古屋		飯田～長野		伊那・駒ヶ根～新宿	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	戸	%	人	%	人	%	人	%	人	%
平成25年	737	42.0	325,892	△ 0.7	190,248	2.0	113,743	△ 2.4	—	—
26	569	△ 22.8	322,878	△ 0.9	195,359	2.7	112,889	△ 0.8	—	—
27	563	△ 1.1	329,654	2.1	203,315	4.1	124,261	10.1	—	—
28	634	12.6	326,157	△ 1.1	208,771	2.7	115,843	△ 6.8	—	—
29	705	11.2	327,875	0.5	218,764	4.8	115,698	△ 0.1	—	—
30	637	△ 9.6	327,033	△ 0.3	219,979	0.6	112,882	△ 2.4	—	—
平成30.1	52	△ 7.1	25,548	△ 3.5	17,511	2.6	8,370	△ 2.3	—	—
2	54	28.6	22,162	△ 1.3	16,857	1.5	8,467	△ 1.9	—	—
3	46	△ 33.3	29,392	△ 1.8	20,443	3.9	10,045	△ 1.4	—	—
4	71	121.9	25,759	4.2	17,961	3.8	9,472	△ 4.0	—	—
5	62	19.2	27,676	△ 3.2	18,240	0.0	10,058	△ 4.8	—	—
6	53	△ 7.0	24,093	0.5	16,062	1.1	9,753	△ 1.6	—	—
7	26	△ 50.9	26,163	△ 2.3	17,104	△ 6.7	9,564	△ 3.2	—	—
8	46	△ 33.3	36,722	△ 0.2	22,773	0.8	10,136	△ 2.0	—	—
9	41	△ 51.2	27,335	0.6	18,457	△ 0.5	9,087	△ 3.8	—	—
10	47	△ 25.4	27,355	1.7	18,546	1.2	9,903	△ 1.8	—	—
11	95	18.8	26,399	2.4	17,852	△ 2.0	9,602	1.6	21,038	—
12	44	△ 8.3	28,429	0.6	18,173	1.1	8,425	△ 3.8	23,128	—
平成31.1	56	7.7	26,728	4.6	17,858	2.0	8,436	0.8	21,047	—
2	40	△ 25.9	23,442	5.8	17,414	3.3	8,411	△ 0.7	18,738	—
3	—	—	30,699	4.4	20,254	△ 0.9	9,841	△ 2.0	25,245	—
資料出所	長野県建設部住宅課		信南交通株式会社							

項目 年月	自動車新規登録台数 (松本自動車検査登録事務所管内)				有効求人倍率	
	新車		中古車		長野県	飯田管内
	実数	前年比	実数	前年比	季節調整値(但、年平均は実数)	
	台	%	台	%	倍	倍
平成25年	30,532	△ 4.7	7,660	3.7	0.87	—
26	30,089	△ 1.5	7,058	△ 7.9	1.09	—
27	30,124	0.1	7,819	10.8	1.25	—
28	27,751	△ 7.9	7,433	△ 4.9	1.41	—
29	27,349	△ 1.4	7,274	△ 2.1	1.60	—
30	27,525	0.6	7,352	1.1	1.69	—
平成30.1	1,904	△ 5.4	422	9.0	1.69	1.55
2	2,356	△ 3.5	530	△ 2.2	1.66	1.79
3	3,854	△ 4.1	811	△ 8.3	1.69	1.75
4	1,898	1.1	628	△ 12.4	1.69	1.70
5	1,896	△ 1.7	597	6.0	1.70	1.75
6	2,189	△ 13.3	737	10.2	1.70	1.71
7	2,230	2.3	617	△ 2.1	1.70	1.62
8	2,110	23.5	642	14.6	1.71	1.61
9	2,623	△ 0.6	589	△ 3.1	1.70	1.41
10	2,211	14.0	623	4.9	1.68	1.34
11	2,293	10.1	572	8.5	1.68	1.45
12	1,961	△ 1.9	584	△ 1.5	1.69	—
平成31.1	1,888	△ 0.8	457	8.3	1.65	—
2	2,370	0.6	553	4.3	1.64	—
3	3,669	△ 4.8	892	10.0	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				長野労働局・ハローワーク飯田	

※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	手形交換高		倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	枚数	金額	長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	枚	千円	件	件	件	%
平成25年	60,405	81,013,729	113	8	2,018	5.5
26	55,798	58,747,886	97	6	2,057	1.9
27	51,892	58,937,709	86	12	2,120	3.1
28	47,284	53,411,735	88	8	2,004	△ 5.5
29	44,601	56,085,863	81	10	1,914	△ 4.5
30	40,929	54,405,406	93	20	1,815	△ 5.2
平成30.1	3,893	5,249,904	8	1	134	15.5
2	3,528	4,262,385	8	0	159	0.0
3	3,186	4,515,904	11	3	207	△ 22.2
4	3,338	4,505,883	5	1	121	△ 4.7
5	3,955	5,306,227	5	2	183	50.0
6	2,907	4,598,402	9	0	149	△ 6.9
7	3,864	4,533,688	10	1	145	△ 2.0
8	3,455	4,778,765	6	1	147	△ 12.0
9	2,790	4,207,557	8	2	148	△ 17.3
10	3,846	4,311,935	11	6	134	△ 5.6
11	3,163	3,725,724	9	3	138	△ 2.8
12	3,004	4,409,032	3	0	150	△ 19.4
平成31.1	3,690	5,445,545	11	1	126	△ 6.0
2	3,040	4,177,126	4	0	150	△ 5.7
3	2,710	5,116,670	8	0	174	△ 15.9
資料出所	飯田手形交換所		南信州地域振興局商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

項目 年月	中央道利用台数 (インターチェンジ出入合計)							
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%
平成25年	2,970,606	1.3	1,939,863	1.4	417,360	10.8	1,070,386	5.9
26	2,782,563	△ 6.3	1,835,138	△ 5.4	364,566	△ 12.6	979,398	△ 8.5
27	2,780,683	△ 0.1	1,821,617	△ 0.7	435,939	19.6	1,047,675	7.0
28	2,755,469	△ 0.9	1,819,412	△ 0.1	375,892	△ 13.8	1,022,578	△ 2.4
29	2,759,316	0.1	1,865,085	2.5	368,243	△ 2.0	1,018,661	△ 0.4
30	2,765,376	0.2	1,871,062	0.3	423,828	15.1	1,017,497	△ 0.1
平成30.1	206,724	0.4	134,680	3.5	26,534	△ 1.8	67,166	△ 2.2
2	194,834	1.7	128,291	3.6	25,793	1.7	63,376	△ 1.9
3	234,949	△ 0.1	152,182	1.5	28,439	3.2	79,385	△ 1.5
4	225,070	1.1	145,746	0.4	57,529	61.5	91,847	10.4
5	236,646	△ 1.2	154,355	△ 1.6	39,871	△ 13.2	87,439	△ 8.0
6	222,252	△ 1.5	150,672	△ 0.6	32,576	55.4	75,205	△ 0.6
7	232,347	△ 2.8	159,791	△ 0.8	34,045	20.9	89,874	3.4
8	260,148	1.1	173,114	△ 0.5	42,127	4.6	112,753	△ 1.5
9	230,249	△ 0.8	160,382	△ 2.1	27,490	△ 8.5	84,642	△ 4.2
10	249,194	4.6	174,737	3.2	45,930	57.5	96,696	8.2
11	245,989	0.5	184,362	0.4	38,239	13.8	95,649	0.1
12	226,974	△ 0.1	152,750	△ 1.8	25,255	2.9	73,465	△ 3.5
平成31.1	209,607	1.4	133,259	△ 1.1	25,060	△ 5.6	66,977	△ 0.3
2	196,648	0.9	125,140	△ 2.5	24,144	△ 6.4	63,059	△ 0.5
3	236,623	0.7	137,643	△ 9.6	26,981	△ 5.1	77,548	△ 2.3
資料出所	中日本高速道路(株)名古屋支社飯田保全サービスセンター							